

TOTO

制御筒ユニット・パッキン(交換手順)

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。
取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

工事店様へ

- 交換前に商品の品番を確認してください。
- 品番ごとに手順が記載されているものがありますので、各手順に従って施工してください。
- 品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

交換前作業

※交換前に下記 ①～③ の作業を実施してください。

① タンク内の水を流す

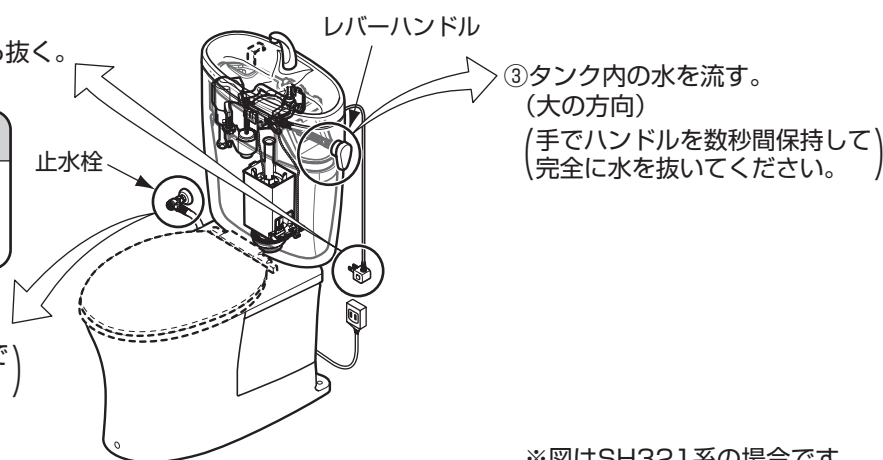
- ①ヒーター用プラグをコンセントから抜く。
(水抜き方式のみ)

⚠注意



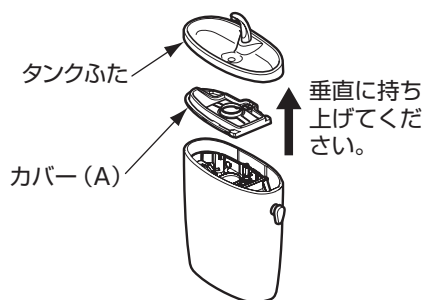
ぬれた手で、電源プラグ
を抜き差ししない
感電の原因になります。

- ②止水栓を閉める。
(マイナスドライバーで
右に回してください。)



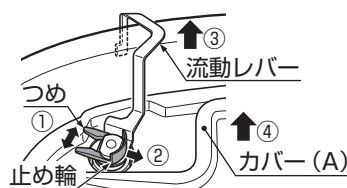
※図はSH321系の場合です。

② タンクふたとカバー(A)を外す

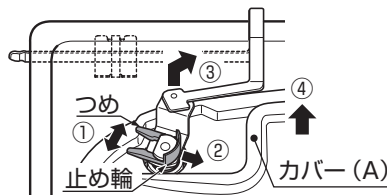


一般地・水抜き方式	カバー(A)を持ち上げてそのまま外します。
流動方式	※流動方式の場合は、流動レバーを外さないと、カバー(A)が外せないようになっています。 ①止め輪のつめ部分を広げます。 ②止め輪をスライドさせ、外します。 ③流動レバーを外します。 ④カバー(A)を持ち上げて外します。
SS135系	カバー(A)はありません。

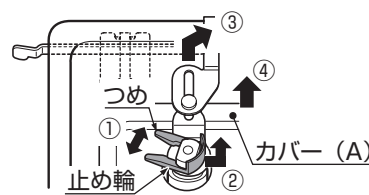
〈SH330BF系・SH331BF系・
SH320BF系・SH321BF系の場合〉



〈SH230BF系・SH231BF系・
SH220BF系・SH221BF系の場合〉



〈SH340BF系・SH341BF系・
SH366BF系・SH367BF系の場合〉

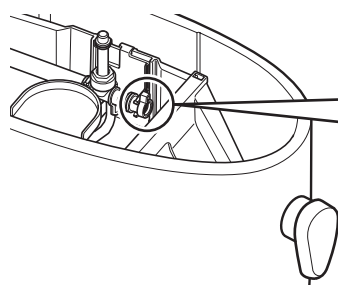


⚠注意

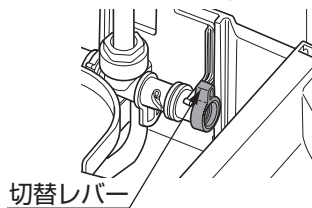


タンクふたは落とさないように
注意する
必ず実行 破損してけがをするおそれがあります。

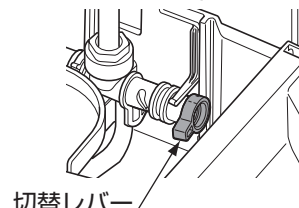
③ 切替レバーの向きを確認する



つまみが上向き（補給水なし）



つまみが前向き（補給水あり）



SH366系、SH367系、SS135系は確認不要です(切替レバー白)。

※部品の交換後に、切替レバーの向きを交換前の状態にあわせる必要があります。

交換手順

●制御筒ユニット

④～⑦、⑨～⑫を参照してください。

●パッキン

④～⑫を参照してください。

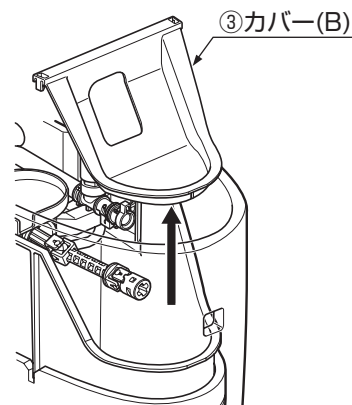
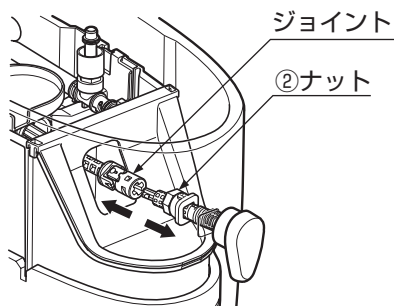
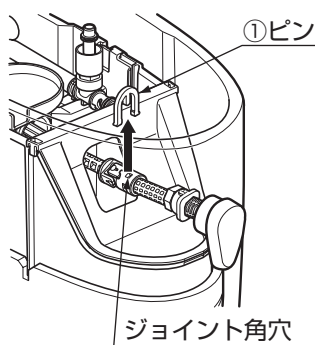
④ レバーハンドル部とカバー(B)を取り外す

①レバーのピンを取り外す。

※ピンを落とさないように注意してください。

②ナットをゆるめてレバーハンドル部を取り外す。

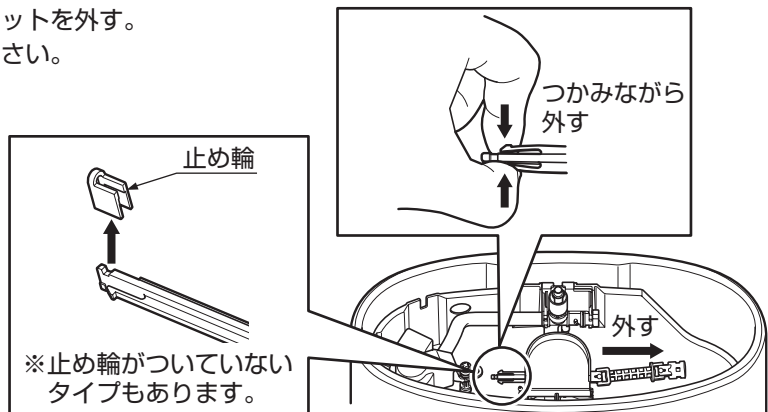
③カバー(B)を取り外す。



※SH220系、SH221系、SH230系、
SH231系、SH320系、SH321系、
SH330系、SH331系の場合のみ、
カバー(B)があります。

5 ジョイントユニットを外す

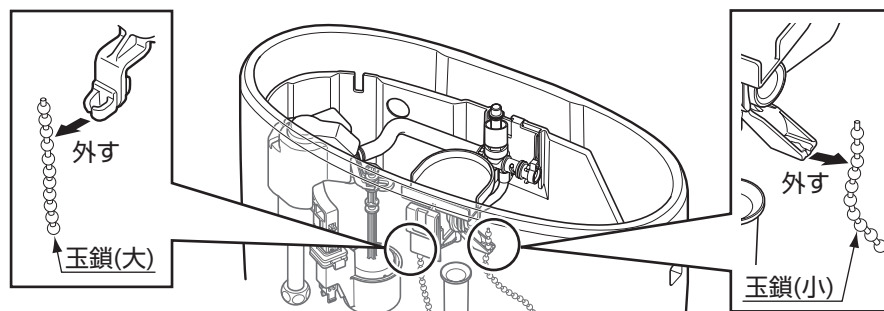
- ・排水レバーユニットからジョイントユニットを外す。
- ※止め輪を落とさないように注意してください。



※SH214系、SH215系の左ハンドルの場合、ジョイントユニットを外す方向は、左右逆向きとなります。

6 玉鎖（大・小）を外す

- ・排水レバーユニットから玉鎖（大・小）を外す。

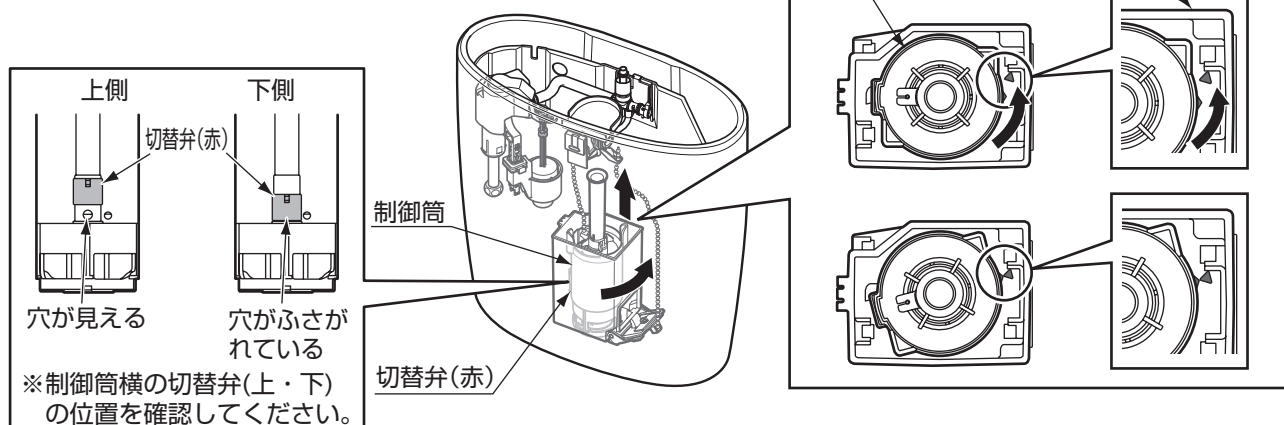


7 制御筒ユニットを取り外す

- ①制御筒のツメを持って回転させる。
- ②右図のように矢印をあわせた後、引き上げて外す。

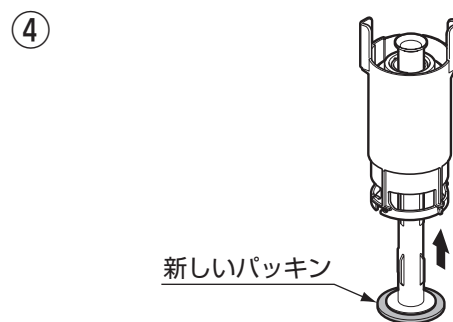
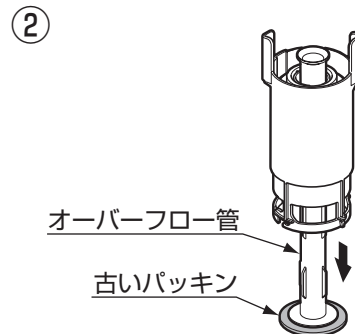
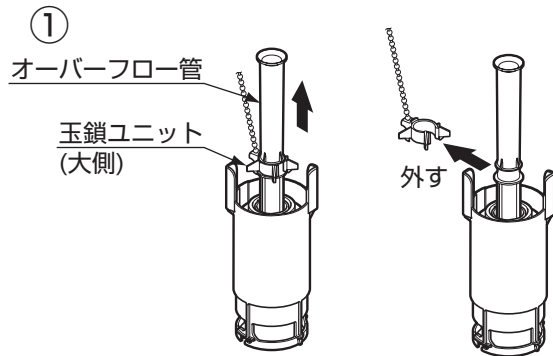
注意

制御筒の取り外し時に樹脂タンクに傷をつけないようにしてください。



⑧ パッキンを交換する

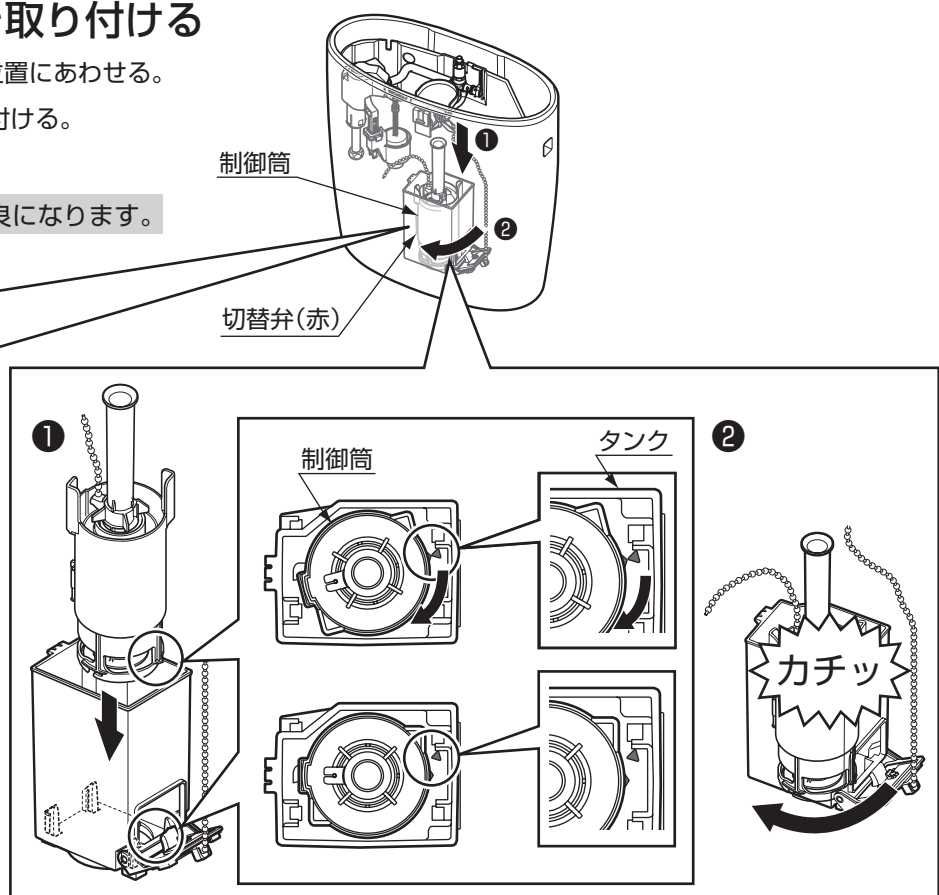
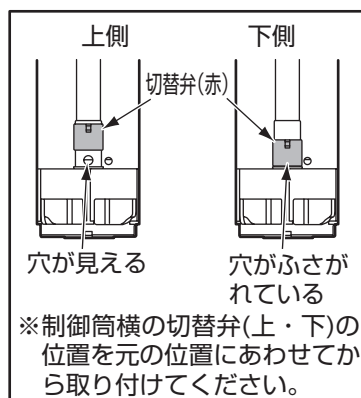
- ① オーバーフロー管から玉鎖ユニット(大側)を取り外す。
- ② オーバーフロー管を取り外す。
- ③ 古いパッキンを取り外し、新しいパッキンを取り付ける。
- ④ オーバーフロー管を戻し、玉鎖ユニット(大側)を取り付ける。
※取り付け際には、向きに注意してください。



⑨ 制御筒ユニットを取り付ける

- ① 切替弁(上・下)の位置を元の位置にあわせる。
- ② 制御筒を時計回りに回し取り付ける。
- ③ 制御筒ユニットを取り付ける。

正しく取り付けないと止水不良になります。



10 玉鎖（大・小）を取り付ける

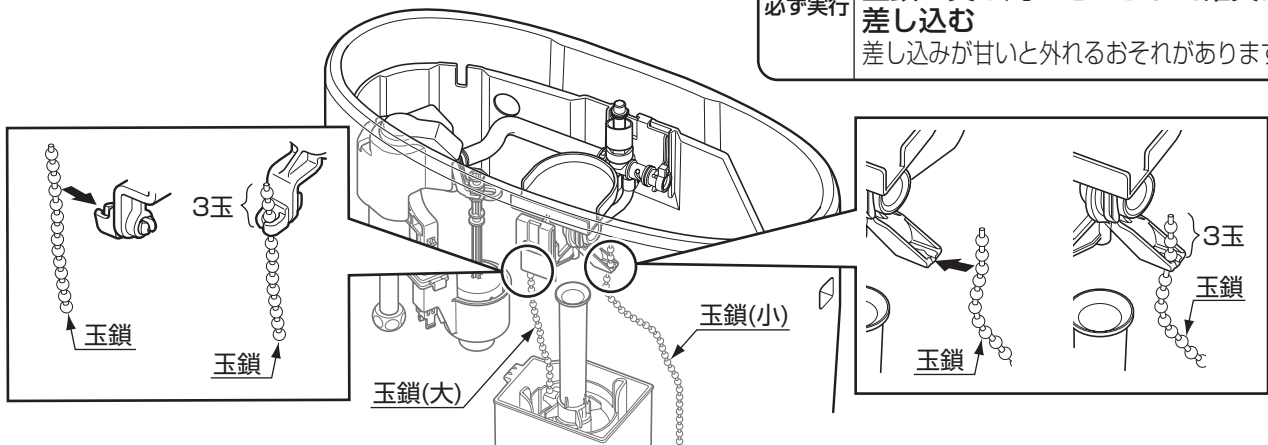
※玉鎖（大・小）の取付位置を間違えないように注意してください。

⚠ 注意



玉鎖は必ず3玉余らせて取り付ける
止水不良や洗浄不良が発生するおそれがあります。

玉鎖は奥の丸いところまで確実に
差し込む
差し込みが甘いとお外れるおそれがあります。



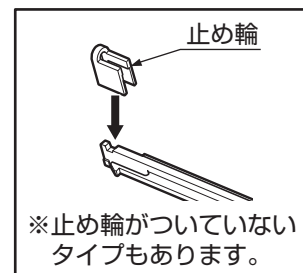
11 ジョイントユニットを取り付ける

- ・排水レバーユニットにジョイントユニットを取り付ける。
※止め輪を落とさないように注意してください。

- ・⑤と逆の手順で取り付ける。

※ジョイントの向きに注意して取り付けてください。
ジョイントは角穴部分が上向きになります。

※SH214系、SH215系の左ハンドルの場合、ジョイントユニットを
取り付ける方向は左右逆向きとなります。

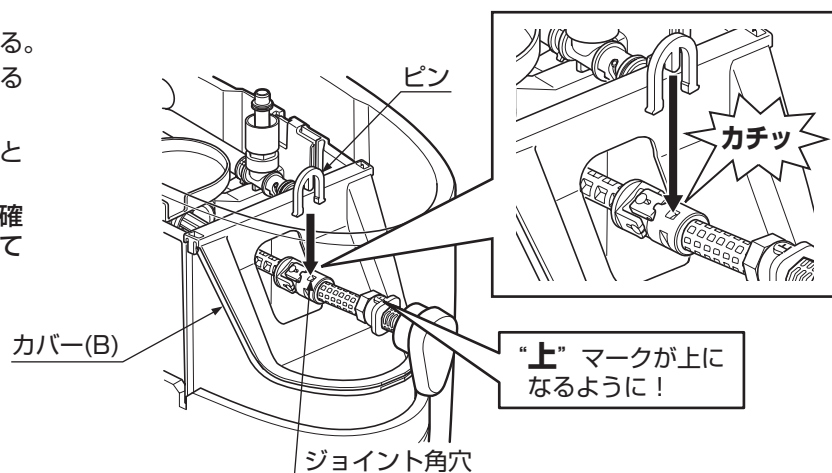


12 レバーハンドル部とカバー(B)を取り付ける

- ・④の①～③と逆の手順で取り付ける。
※カバー (B) は確実にはまっていることを確認してください。

- ・ジョイント角穴にピンを「カチッ」と音がするまで差し込み、固定する。

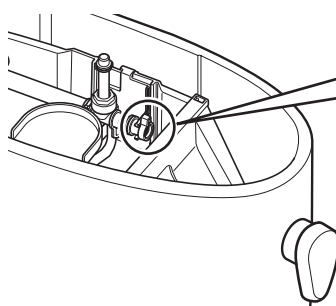
※ジョイントとスピンドルガイドが確
実に固定されていることを確認して
ください。



交換後作業

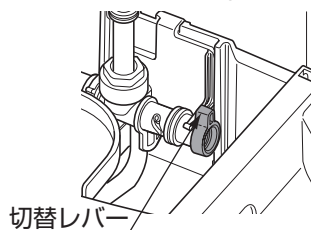
※交換後に下記 ⑬～⑮ の作業を実施してください。

⑬ 切替レバーの向きを確認し、交換前の状態にあわせる

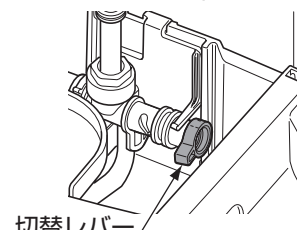


つまみが上向き（補給水なし）

つまみが前向き（補給水あり）



切替レバー



切替レバー

SH366系、SH367系、SS135系は確認不要です(切替レバー白)。

⑭ カバー(A)とタンクふたを元に戻す

⚠ 注意

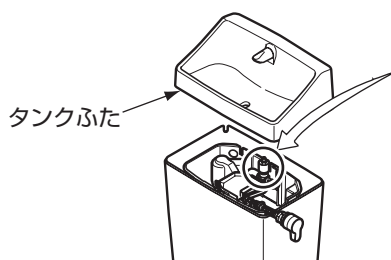


タンクふたを確実に差し込む

確実に差し込まれていないと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

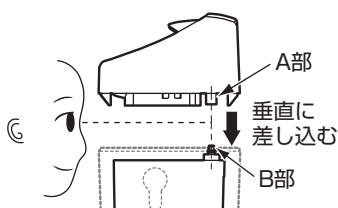
必ず実行

一般地・寒冷地〈SS135BA・BN系の場合〉



タンクふた

A部とB部をあわせて、垂直に差し込んでください。

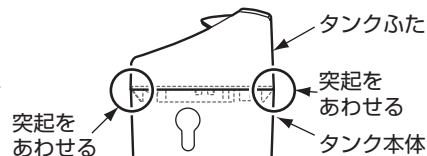


A部

垂直に
差し込む

B部

タンクふたの突起をあわせて差し込み、すき間がないことを確認してください。

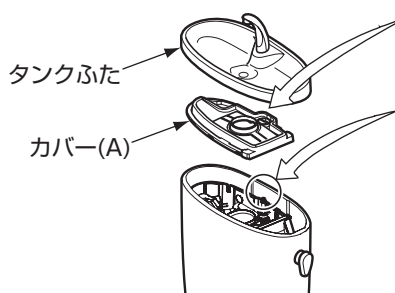


タンクふた

突起を
あわせる

タンク本体

一般地・水抜き方式〈SH330BA・BN系、SH331BA・BN系、SH320BA・BN系、SH321BA・BN系、SH230BA・BN系、SH231BA・BN系、SH220BA・BN系、SH221BA・BN系、SH340BA・BN系、SH341BA・BN系、SH366BA・BN系、SH367BA・BN系の場合〉



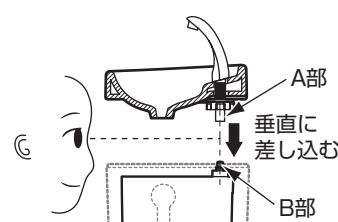
タンクふた

カバー(A)

①カバー(A)を樹脂タンクにあわせて取り付け。

②タンクふたを取り付ける。

A部とB部をあわせて、垂直に差し込んでください。

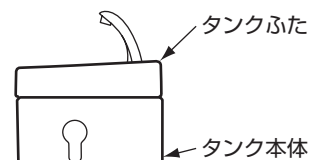


A部

垂直に
差し込む

B部

タンクふたをあわせて差し込み、すき間がないことを確認してください。



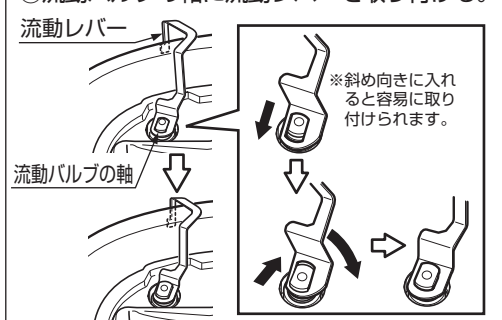
タンクふた

タンク本体

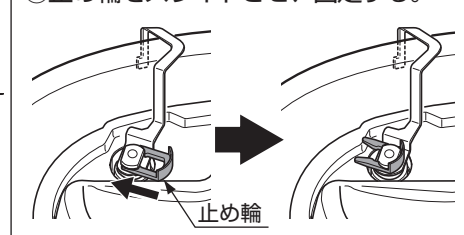
流動方式〈SH330BF系、SH331BF系、SH320BF系、SH321BF系の場合〉

①カバー(A)を樹脂タンクにあわせて取り付ける。

②流動バルブの軸に流動レバーを取り付ける。



③止め輪をスライドさせ、固定する。

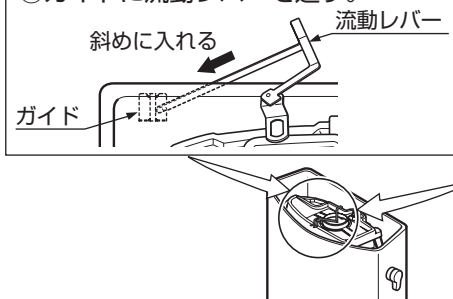


④タンクふたを取り付ける。

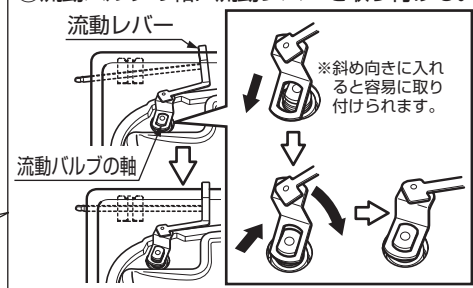
流動方式〈SH230BF系、SH231BF系、SH220BF系、SH221BF系の場合〉

①カバー(A)を樹脂タンクにあわせて取り付ける。

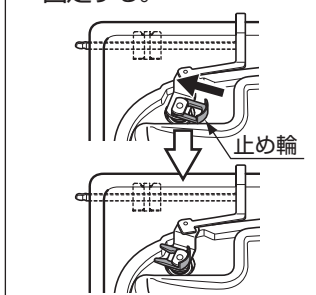
②ガイドに流動レバーを通す。



③流動バルブの軸に流動レバーを取り付ける。



④止め輪をスライドさせ、固定する。

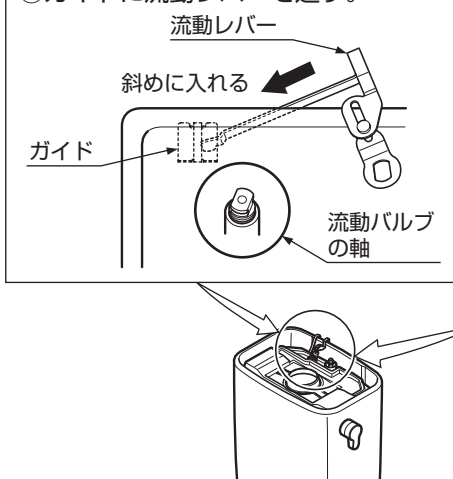


⑤タンクふたを取り付ける。

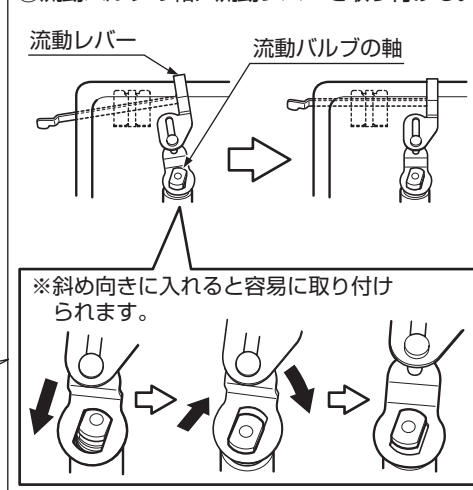
流動方式〈SH340BF系、SH341BF系、SH366BF系、SH367BF系の場合〉

①カバー(A)を樹脂タンクにあわせて取り付ける。

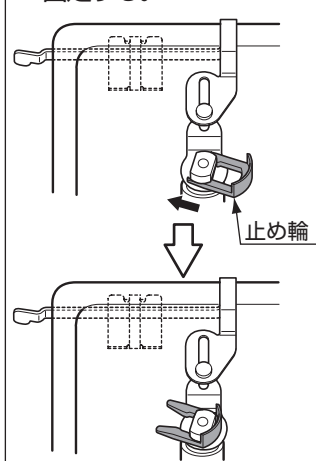
②ガイドに流動レバーを通す。



③流動バルブの軸に流動レバーを取り付ける。



④止め輪をスライドさせ、固定する。



⑤タンクふたを取り付ける。

15 取り付け完了後の確認をする

- ・ 止水栓を開け、2～3度洗浄させて、便器・タンク内外への水漏れや洗浄状態などの異常がないことを確認する。
- ・ 水の出方が悪いときは、取扱説明書（お客様保管）“給水フィルターの掃除”を参照して掃除を行う。
- ・ 凍結のおそれがある場合は、取扱説明書（お客様保管）の凍結予防方法に従って凍結予防を行う。